

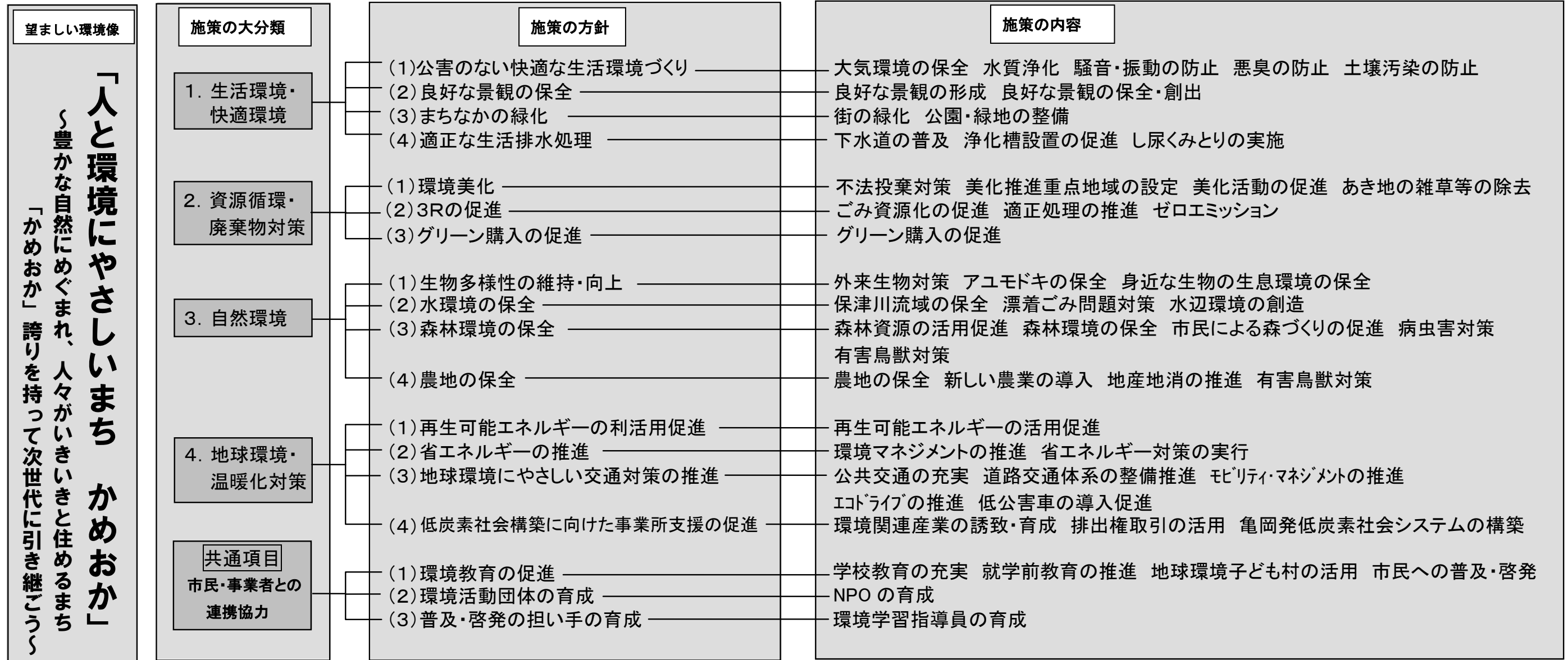
第2次亀岡市環境基本計画

取組状況報告書

平成29年度

亀岡市

施策の体系



1 生活環境・快適環境

太字…新たな取り組みおよび変更箇所

No.	施策の方針	施策の内容	市の取り組み
1	公害のない 快適な生活 環境づくり	大気環境の 保全	京都府が実施している大気汚染測定の結果等から大気の状態を把握し公害や苦情等の対応、未然防止を図るための資料とした。
2		水質浄化	年に2回(5、11月)35定点検査。年に4回(7、9、1、3月)9定点検査を実施し、年谷川や犬飼川など市内の各河川の継続的な水質監視を実施した。
			水質汚濁苦情4件の内、1件は京都府南丹保健所と連携して原因調査及び再発の防止を図った。
			美しい山河を守る災害復旧基本方針に基づく設計施工を行った。
3		騒音・振動 の防止	平成30年3月に騒音測定を実施した。(昼間39箇所、夜間13箇所)
			公共事業において、低騒音・低排気ガスの重機の使用、低騒音・低振動工法の選定を行った。
4	悪臭の防止	京都府条例に基づく届出を受理し、検査したうえで公害の早期発見、未然防止に努めるところだが、平成29年度届出実績はなし。	
5	土壌汚染の 防止	京都府への届け出に対して、市として情報提供や意見提出を行い、法令順守を指導することで公害の未然防止に努めた。	
6	良好な景観 の保全	良好な景観 の形成	景観計画及び景観条例を適正に運用した。(届出件数:建築物25件、工作物8件) 景観計画の改定版冊子を作成し窓口で配布した。
7		良好な景観 の保全・創 出	景観重要建造物や景観重要樹木の指定制度についてのパンフレット等を窓口で配布した。 城下町フェスティバルを開催し、市民へ町家保全に関する普及啓発を実施した。 保津川や保津峡を中心に「日本遺産」申請を行った。
8	まちなかの 緑化	街の緑化	地域資源を活かした「亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想」を策定するとともに、市民団体等の協力を得ながら「ウェルカムガーデン整備事業」を行うなど、花と緑にあふれるまちづくりを推進した。
			花と緑のフェスティバルの実施(4月15日(土)・16日(日)/ガレリアかめおか/来場者数約10,000人)
			花づくりコンクールの実施(参加数:保育所(園)12箇所、小学校17箇所、中学校8箇所)
			自治会が行うわがまち花づくりの補助金交付(13件、補助金額563,096円)
			みどりのカーテンモデルの実施(参加校:公立の保育所6箇所、私立の保育園8箇所、公立の幼稚園1箇所、小学校7箇所、市内介護施設13箇所)
9	公園・緑地 の整備	都市公園(35箇所)、開発公園(153箇所)の適正な維持管理を行った。新たな施設設置はなし。	
10	適正な生活 排水処理	下水道の普 及	計画的に管路整備の事業推進を図った。(整備面積:5ha)
			委託業者であるお客様センターによる戸別訪問時に啓発チラシの配布を実施した。 下水道の水洗化率:87.56%(参考:H28年度 87.2%)
			下水道の日(9月9日)に下水道フェスティバルを開催した。
11	適正な生活 排水処理	浄化槽設置 の促進	対象地域において組回覧(3回)、啓発のぼりの設置(6回)、維持管理の啓発(14回)を行った。 東別院町を対象に市費の上乗せ補助を実施。(5人槽8基、7人槽1基)
12			し尿くみとり の実施

2 資源循環・廃棄物対策

太字…新たな取り組みおよび変更箇所

No.	施策の方針	施策の内容	市の取り組み
1	環境美化	不法投棄対策	専任監視員によるパトロールを行った。 業務委託によるパトロール(延べ256日512人) 監視カメラ設置(2箇所2台)
			不法投棄防止に向け民間事業者等と協定を締結し、監視体制を強化した。 (公益財団法人亀岡市環境事業公社からの情報提供6件、いずれも早期撤去)
			不法投棄案件として証拠品の保管等で警察と連携を行い、不法投棄行為を2件検挙・指導した。
			林道で不法投棄現場(2箇所)を発見し、対応した。
2	美化推進重点地域の設定	年2回市民等と美化推進重点地域の清掃を実施した。 新たな区域設定に向けて河川等の美化を推進した。	
3	美化活動の促進	美化推進重点地域(亀岡駅周辺)の早朝一斉清掃と啓発活動を実施した。(年2回、参加人数延べ約200人)	
		清掃用具の貸出、貸与を行い地域の自主的な環境保全活動を支援した。 (美化活動作業人数延べ21,793人/117団体)	
4	あき地の雑草等の除去	年2回(6月、12月)の雑草パトロールを実施し、管理不良なあき地の所有者に対して指導を行った。 (6月指導件数20件、12月指導件数5件)	
5	3Rの促進	ごみの資源化の促進	使用済み小型家電の回収について、都市鉱山から作るみんなのメダルプロジェクトと連携し啓発を図った。(同プロジェクト内ホームページへの掲載、小型家電回収ボックスに啓発パネルの設置など。)
			平成30年3月議会にて、亀岡市循環型社会推進条例の一部を改正する条例(直接持ち込み手数料の改正)を上程した。
			ごみの減量やリサイクルについての標語・川柳及びポスターを募集し、入賞作品について亀岡市役所1階ロビーにて展示を実施した。
			発注工事における設計図書(特記仕様書等)に明記し、再生資源の利用等に努め、施工した。
6	適正処理の推進	各法令基準値を超えないように施設の運転管理、維持管理を重視した。施設の延命化のため、平成24～27年まで実施した基幹改良工事対象外の施設について重点的に修繕対応を実施した。	
		公益財団法人亀岡市環境事業公社と連携し、ごみ収集の際に不適正排出に対して啓発シールを貼付し啓発した。	
		発注工事における設計図書(特記仕様書等)に明記し、廃棄物の適正処理に努め、施工した。	
7	ゼロエミッション	亀岡市ゼロエミッション計画(ごみ処理基本計画)を策定し、市施設での更なるごみの減量、再利用に取り組んだ。また、事務連絡では、運送網一覧を活用し、封筒の再利用などに取り組んだ。	
8	グリーン購入の促進	グリーン購入の促進	物品調達基金で取り扱う事務用消耗品は全てエコ・グリーン(環境に配慮した)製品等を購入した。

3 自然環境

太字…新たな取り組みおよび変更箇所

No.	施策の方針	施策の内容	市の取り組み
1	生物多様性の維持・向上	外来生物対策	市の防除計画に基づき、市が所有する捕獲オリを自治会や個人に貸し出して、アライグマ、ヌートリアを捕獲した。(捕獲オリの貸出し:85基、捕獲実績:アライグマ78匹、ヌートリア6匹) アユモドキの保全のため外来魚駆除大会(年2回)を実施した。(駆除実績:オオクチバス181匹、ブルーギル350匹)
2		アユモドキの保全	亀岡市保津地域アユモドキ保全協議会(年2回)を開催。
			サイエンスフェスタで保護増殖活動を報告し、アユモドキの啓発のため、クイズラリーを実施した。
			ファブリダム(農業用ゴム堰)立ち上げ時や、中干し、落水に伴う水路濁水時にアユモドキの救出活動を実施した。
			アユモドキ生息環境再生整備実験を実施した。 市の象徴として「市の魚」アユモドキを制定した。
3	身近な生物の生息環境の保全	サイエンスフェスタで、生物多様性の維持保全を啓発した。	
4	水環境の保全	保津川流域の保全	「川と海つながり共創プロジェクト」と連携し、漂着ごみ発生抑制対策の取り組みとして、漂着ごみ調査・清掃事業やイベント等の、環境美化への活動や啓発を実施した。 河川愛護月間の街頭広報活動(7月1～31日公用車に啓発用看板取付・市庁舎前に懸垂幕掲出、きらり☆亀岡おしらせ掲載)を実施した。
5		漂着ごみ問題対策	「川と海つながり共創プロジェクト」と連携して実施した「保津川の日」に市民、企業、NPO、関係機関、行政等が参加し、広く交流を図ることで、漂着ごみの発生抑制対策に向け、各団体が役割分担を意識しながら、保津川の上下流や支流への意識の広がりを図ることができた。
6		水辺環境の創造	保津川かわまちづくり推進協議会を開催した。(年1回) 河川工事において美しい山河を守る災害復旧基本方針に基づく設計施工を行った。
7	森林環境の保全	森林資源の活用促進	搬出による間伐材の資源活用の推進は未着手。 バイオマス(エネルギー資源として利用できる生物体)利活用の研究の推進は未着手。 4者協定(立命館大学・龍谷大学・京都学園大学・亀岡市)に基づく調査研究の継続。 市内スーパー3店舗での商品販売(販売数102,703個)および学校給食へクルベジ(クールベジタブル、二酸化炭素削減のために炭を埋めた畑で栽培された野菜)を提供。
8		森林環境の保全	林道災害の復旧工事はなかった。 京都府が林地開発の指導を実施しており、違法開発はなかった。
9		市民による森づくりの促進	市内2地区(曾我部町、宮川町)で実施した。
10	病虫害対策	森林病虫害防除事業による伐倒駆除・樹幹注入等作業を森林組合に委託し実施した。(伐倒駆除31㎡、樹幹注入242本)	
11	有害鳥獣対策	有害鳥獣防護柵の設置はなかった。 亀岡猟友会に委託し、有害鳥獣を捕獲した。(捕獲頭数:649頭)	

3 自然環境

太字…新たな取り組みおよび変更箇所

No.	施策の方針	施策の内容	市の取り組み
12		農地の保全	国営緊急農地再編整備事業において工事に着手した。(本梅工区の一部、佐伯工区の一部)
			多面的機能支払交付金を交付した。(実績:72件、162,638千円)
			中山間地域の集落に対し、現地や交付金の使用状況について確認を行った。
			認定農業者数等は、146名となった。
13	農地の保全	新しい農業の導入	低農薬等により安全で安心な農産物を栽培するエコファーマー(環境にやさしい農業に取り組む農業者)が増加するよう、また農産物の販売量の増加を目指し、エコファーマーシールの作成費用等を助成した。
14		地産地消の推進	小中学校での食農学習推進事業を実施した。(小・中学校等17校) 夏休みを利用した収穫体験と親子料理教室を実施した。(1回、参加者9組24人)
			農業体験の機会を提供する農業塾の実施(全8講座、参加者25口、74人)
			市内飲食店、直売所等での市内産農産物を使用した食事、弁当等の提供機会を拡大した。
15		有害鳥獣対策	有害鳥獣防護柵を設置した(設置延長1,039m)(協議会事業) 亀岡猟友会に委託し有害鳥獣を捕獲した。(捕獲頭数:649頭)

4 地球環境・温暖化対策

太字…新たな取り組みおよび変更箇所

No.	施策の方針	施策の内容	市の取り組み
1	再生可能エネルギーの利活用促進	再生可能エネルギーの利活用促進	亀岡市家庭向け自立型再生可能エネルギー導入事業費補助金を交付した。(実績5件、補助金額1,740千円、公称最大出力37.73kW、蓄電容量41.00kWh) 先進地(湖南省、泉佐野市)の取組事例を参考とするとともに、民間企業との共同出資により、地域新電力会社・亀岡ふるさとエナジー株式会社を設立し、自然エネルギー利活用の方向性について連携し、研究を始めた。
2		環境マネジメントの推進	環境マネジメントシステムを運用し温室効果ガス排出量の削減に努めた。 ※平成29年度の温室効果ガス排出量は、21,772,981kg。(平成26年度比9.1%の減少、平成28年度比2.2%の減少。) 亀岡商工会議所が中心となって、ISOの個別相談を行い、商工会議所のホームページを通じてエコ検定受験の推進を行った。
3	省エネルギーの推進	省エネルギー対策の実行	みどりのカーテンモデル事業を公立の保育所6箇所、私立の保育園8箇所、公立の幼稚園1箇所、小学校7箇所、介護施設13箇所で行った。 ライトダウンinかめおかを、6月21日(夏至の日)、7月7日(七夕の日)、8月7日(保津川花火大会の日)に実施した。また、亀岡駅や市内のスーパー等で街頭啓発を実施した。 環境マネジメントの運用を通じて、各公共施設の省エネルギー対策を促進した。
4		公共交通の充実	平成29年度は亀岡地区コミュニティバス96,357人、篠地区コミュニティバス25,390人、ふるさとバス135,158人の乗車実績であった。
5	地球環境にやさしい交通対策の推進	道路交通体系の整備推進	道路事業(6路線)を実施し、道路環境の改善に努めた。 主要生活道路の舗装改良工事、橋梁長寿命化に伴う橋梁修繕を行った。
6		モビリティ・マネジメント ^{※1} の推進	市内小学校(安詳小学校)において交通環境学習を実施した。 庁内掲示板によるエコ通勤促進の呼びかけを行った。 エコ通勤優良事業所再認証
7		エコドライブの推進	庁内掲示板を通じて職員、市ホームページを通じて市民へエコドライブ(環境に配慮した自動車の使用)の啓発を行った。
8		低公害車の導入促進	公用車の買い替えにあたり、低燃費車の軽自動車等(3台)を購入した。
9	低炭素社会構築に向けた事業所支援の促進	環境関連産業の誘致・育成	新たな工業用地の確保に向け、関係機関と連携し、用地情報の発信、土地利用転換についての協議を行った。 ものづくり産業振興会議を開催し、事業関係者との連携・推進体制づくり及び支援を行った。
10		排出量取引の活用	京都版CO2排出量取引制度について市ホームページで紹介した。
11		亀岡発低炭素社会システムの構築	4者協定(立命館大学・龍谷大学・京都学園大学・亀岡市)に基づく調査研究の継続。 市内スーパー3店舗での商品販売(販売数102,703個)及び学校給食へクルベジ(クールベジタブル、二酸化炭素削減のために炭を埋めた畑で栽培された野菜)を提供。

※1 モビリティマネジメント(MM)とは、多様な交通施策を活用し、個人や組織・地域のモビリティ(移動状況)が社会にも個人にも望ましい方向へ自発的に変化することを促す取り組みのこと。

(共通事項) 市民・事業者との連携協力

太字…新たな取り組みおよび変更箇所

No.	施策の方針	施策の内容	市の取り組み
1		学校教育の充実	地球環境こども村での環境学習の実施(来村事業:9団体、920名)
			桜塚クリーンセンター等の施設見学の実施(全小学校の4年生(824人))
			各校のこれまでの取組内容をまとめた事例集等を参考に、各学校や各ブロックの実状に応じた取組を進めた。
2	環境教育の促進	就学前教育の充実	各保育所等で、みどりのカーテンや花・野菜の栽培を通じて児童に環境教育を行った。
			各保育所等で、視聴覚教材を活用して児童に「自然や環境の大切さ」、「物を大切にす精神」を啓発した。
3		地球環境子ども村の活用	亀岡生き物大学の開催(7月～12月11回) 初級コース102名、中級コース47名、上級コース20名、キッズクラブ17名 計186名 特別講座24講座581名
			他団体(学校・地域)との協力事業及び講師派遣事業の実施(41回、1,941名)
4		市民への普及・啓発	ガレリアかめおかで開催されるサイエンスフェスタにて、市民に広く環境保全を啓発した。
			図書館で環境関連図書(25冊)を収集した。 環境月間において、全館で環境関連の資料の展示・紹介を行った。
5	環境活動団体の育成	NPOの育成	環境問題に取り組む団体への支援金交付を行い、市民主体の活動を支援した。 (支援金交付団体:14団体、交付額:1,780,401円)
			保津川復活プロジェクト(京筏組)のネットワークを中心に9月16日(土)「いかだののってみよう!!」を開催予定としたが、台風のため中止した。京都学園大学が主催し、文化資料館も参加している京筏組が協力して、12月17日(日)に嵯峨嵐山を会場として、12連筏の復元を実施した。
6	普及・啓発の担い手の育成	環境学習指導員の育成	NPO法人 亀岡人と自然のネットワークや、丹波淡水魚研究会と連携し、アユモドキ生息状況等調査や外来魚駆除活動を実施した。
			亀岡生き物大学の事業を通じて、環境学習指導員の育成(事業の講演や他講師の事業計画の支援等)・確保に努めた。